

木原小学校保護者 柳生 由美子



私は平和記念式典に参列するため初めて広島を訪れました。式典が行われる平和記念公園では核廃絶のため、過去の惨劇を伝えるためのイベントや署名活動が行われていて広島の人たちの平和への願いが伝わってきました。原爆ドームや資料館、被爆体験講話など実際に自分の目で見て聞いて様々な事を学び改めて戦争や核の恐ろしさを知りました。そして平和に対する一人一人の思いが世界平和につながるのではないかと思います。

広島平和記念式典派遣事業を通して親子で貴重な経験ができて良かったです。

安中小学校6年 俵 琉心

僕は原爆が落とされた8月6日を忘れたくありません。一瞬で人々が原爆におそわれ生き残った人達も後遺症で苦しく何もかもを原爆というたった一つの物にうばわれた悲しみを感じました。何げなく暮らしていたのに一つの原爆でたくさんの人の命が失われ、たくさんの人が悲しみ、苦しんだ原爆を無くせるなら無くしたいです。



でも世界には一万四千位の核兵器があり、無くしていく努力をしていかないと本当に世界が終わってしまうので、あきらめず何を言われようと人々に伝えていこうと思いました。

大谷小学校保護者 坂本 真喜子



4月にリニューアルしたばかりの広島平和記念資料館。実物での展示が重要視されており、あの日の悲惨さが伝わるものでした。74年前の出来事が目の前に展開され、度々胸が締め付けられるように痛みました。平和記念式典の子ども代表による平和への誓い「自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。」この言葉を、私達大人がしっかりと受け止め、応えなければならないと思いました。戦没者を弔い、戦争、平和について子供と考える有意義な時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。



とうろう流し



被爆体験講話

木原小学校6年 柳生 結月



私は木原小代表として広島平和記念式典派遣事業に参加しました。平和記念公園に行き、みんなの願いがこめられた千羽鶴を奉納しました。そこには世界中からの千羽鶴があり、おどろきました。そして原爆ドームや平和記念資料館を見学しました。これが実際に起こった事だと思うととても怖くなりました。

式典で代表だった子どもたちが平和の誓いの中で「自分の周りを平和にすることは私たち子どもにもできることです。」と言っていました。それが平和につながると思い、私もできることから始めようと思います。

安中小学校保護者 俵 和弘

8月6日を忘れない。74年前の8時15分に原爆が投下されて、たくさんの命と未来が一瞬で消えてしまいました。



今もなお苦しんでおられる被爆した方の体験講話は、戦争を知らない人には語る事の出来ない重みがありました。その中でも子供たちへの質問で「おなかすいた事ある?」「裸足で生活したことある?」と聞いた時は自問自答し言葉に出来ませんでした。しかしこれからの世代は「悲惨な過去」をくり返さぬ様に伝える義務があると思います。今回、親子で体験した事を未来の平和に向けて自分達に出来る事をして行こうと思います。

大谷小学校6年 坂本 結心



今まで私は、戦争というのは、過去の出来事だったり、どこか遠くの国の話だともっていましたが、広島に行って考え方が変わりました。

当時8才で被爆した岡田さんの話を聞いて、大きなショックを受けました。大切な人が一瞬で死んでしまう怖さ。それは、本やテレビで感じるものとはちがう、初めて感じた、言葉では表せないくらいの怖さでした。74年たった今でも、忘れる事のできない岡田さんたち被爆者の心の傷を知りました。恐ろしさから目をそむけず、もっと戦争の事を学ばなければならないと思いました。



式典参列



折鶴奉納

核兵器なき世界の実現に向けて 語り継ごう 平和の尊さを ～広島平和記念式典に参列～

広島・長崎に原爆が投下されて74年。

広島平和記念公園には様々な年齢・国籍の方々を訪れ、平和への祈りを捧げました。

被爆者の方たちの高齢化により、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。

村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表、教職員代表等の計11名が、木原小・安中小・大谷小および美浦中学校の児童生徒が平和への願いを込めて折った千羽鶴を奉納するとともに、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)に参列しました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。

《敬称略》

美浦村議会議員 松村 広志



戦争ほど残酷なものはない。戦争ほど悲惨なものはない。その戦争により凄惨を極めた広島。荒廃した原爆ドームから今なお凄烈な叫びが伝わってくる様でした。人間を狂気と化す戦争に、正義も正論も存在し得ない。戦争は絶対悪である、と改めて認識させられました。74年前の惨劇を私たちは永劫に忘れてはならない。同時に、平和を貫く決意も忘れてはならない。なぜなら、平和ほど尊く幸福なものはなく、平和こそが永久に私たちの進むべき根本の道であると強く確信するからです。このような貴重な機会を戴き深く感謝申し上げます。



▲原爆ドーム前にて

木原小学校校長 田組 順和



「みんなの『大切』を守りたい。」平和式典での六年生の平和への誓いです。広島平和記念式典派遣事業に参加する貴重な機会をいただき、恒久平和、核兵器廃絶という言葉の重さ、世界中の方が平和を願っていることを改めて実感しました。目の前には、これからの社会を創る子どもたちがいます。学んだこと、感じたことを伝え、強い意志で『大切』なものを守れることを共に考えていきたいと思います。

最後に、私たちがより有意義に過ごせるように配慮してくださった美浦村事務局、協議会の方に感謝申し上げます。

大谷学区子ども会育成連合会会長 鈴木 聡使



広島原爆投下から74年、今年も多くの方が千羽鶴や慰霊碑に祈りを捧げました。

そして実際に広島で被爆した岡田さんの話を伺いました。「8歳の時に被爆、何が起きたか分からなかった。徹底した軍事教育の元、自身も男子なら兵隊になりたい位だった。食糧が無くお腹が空いて空いて」と、今では考え難い話をして頂きました。また「広島・長崎は過去の話だと思いがちだが、現在の核の数は世界では1万を超えており、未だ問題である」と仰っていました。その現状と平和への尊さを今、私達が次の世代へ伝えていく事が大切だと痛感しました。